

ザンビア大学獣医学部
技術協力計画フェーズII
実施協議調査団報告書

平成4年10月

国際協力事業団

農研委
JR
97-59

国際協力事業団

24624

JICA LIBRARY



1102743101

24624

序 文

国際協力事業団は、ザンビア共和国政府の要請を受け、平成3年9月ザンビア大学獣医学部技術協力計画フェーズⅡに関する事前調査を実施し、その調査報告を踏まえ、平成4年6月28日から7月11日まで北海道大学獣医学部金川弘司教授を団長とする実施協議調査団を現地に派遣しました。

同調査団は、ザンビア共和国政府関係者と実施のための協議を行い、討議議事録（R/D）及び暫定実施計画の署名交換を行いました。その結果、本プロジェクトフェーズⅡを平成4年7月22日から5か年間の計画で実施することとなりました。

本報告書は、同調査団による協議結果等を取りまとめたものであり、今後、本プロジェクトの実施に当たり広く活用されることを願うものです。

終わりに、この調査にご協力とご支援をいただいた内外の関係各位に対し、心より感謝の意を表します。

平成4年10月

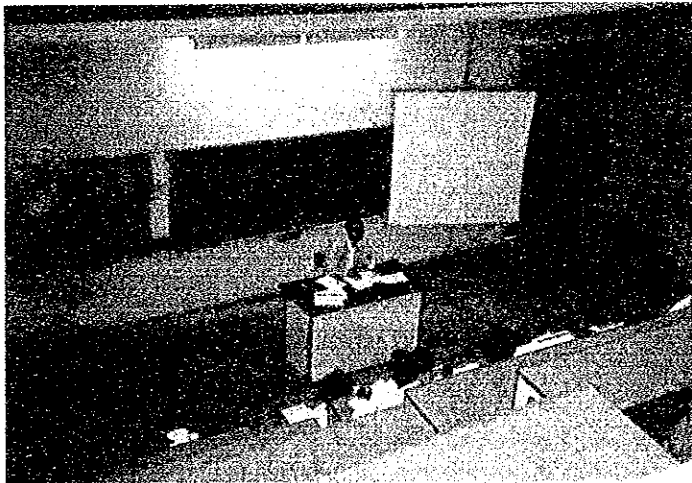
国際協力事業団

理事 田口俊郎



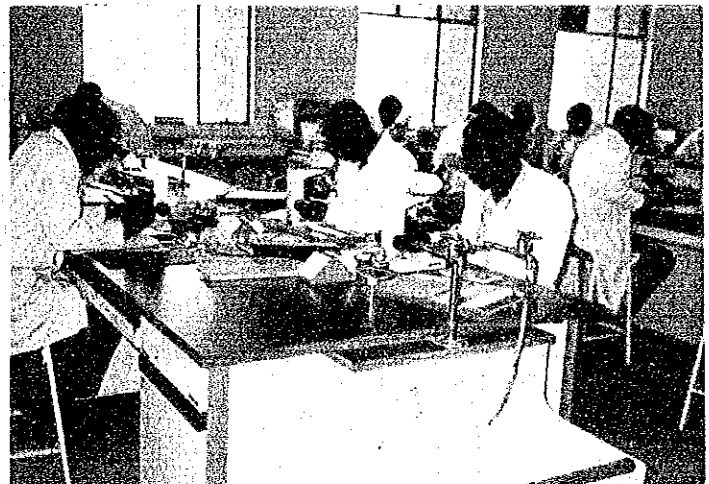
R/Dの署名

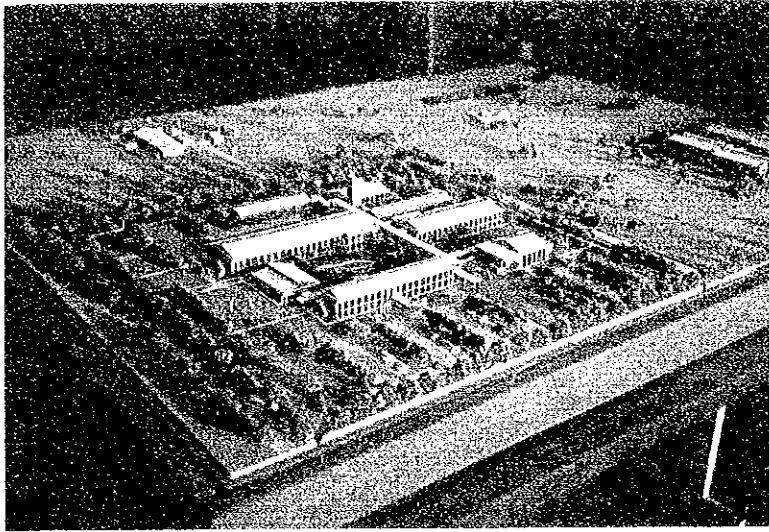
スクールミーティング



専門家による講義

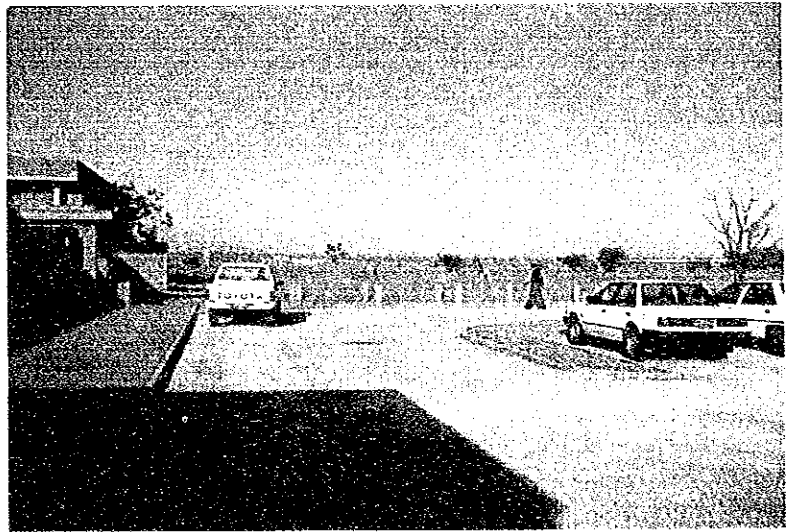
実習風景





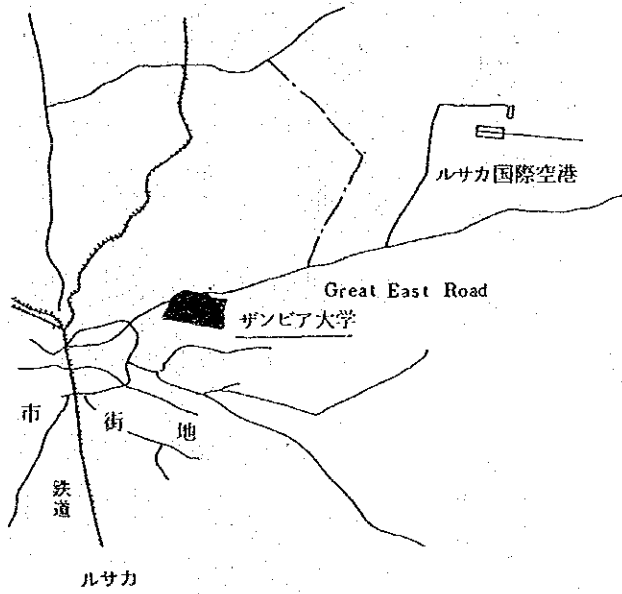
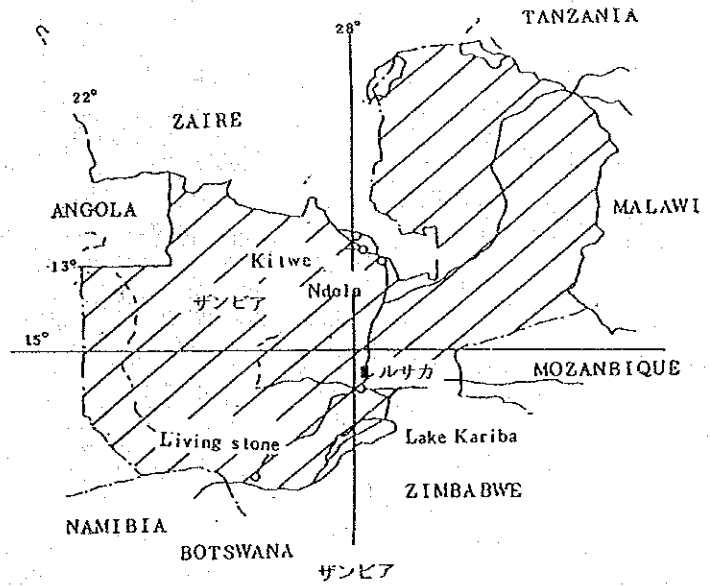
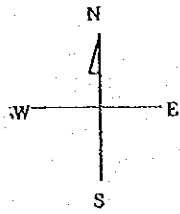
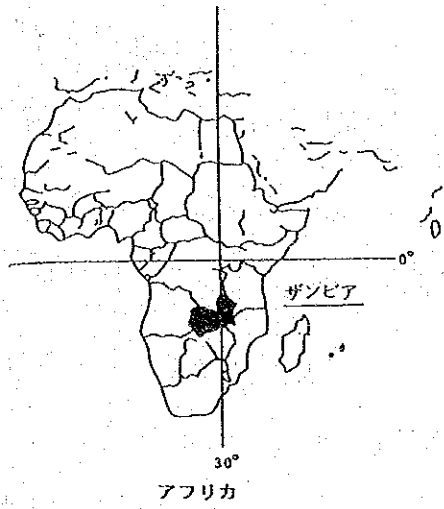
獣医学部全景

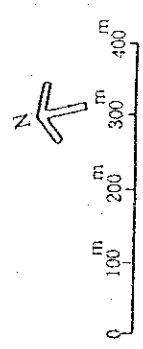
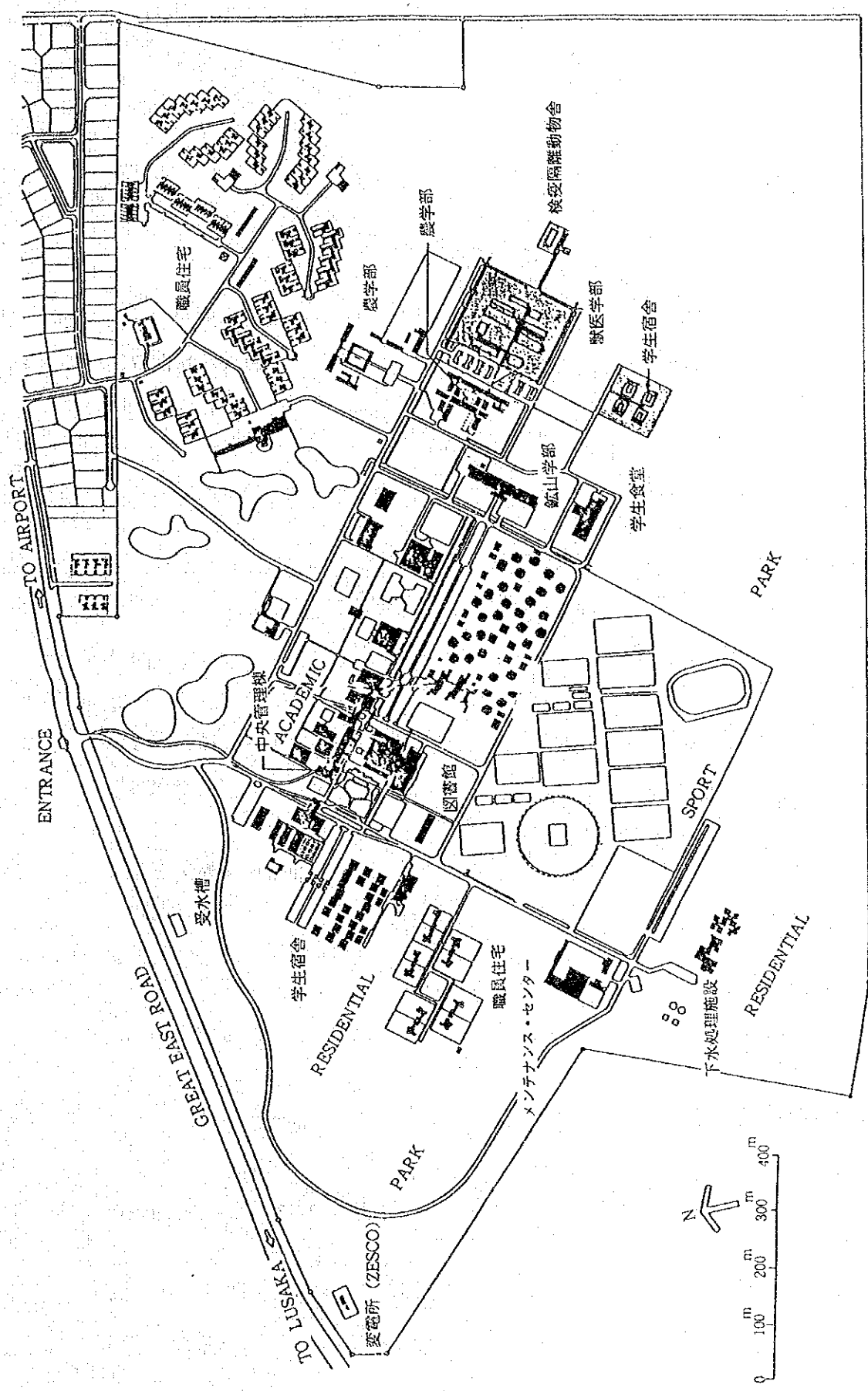
熱帯動物病研究センター予定地
(写真中央の草地)



金川教授、萩尾助教授による
記念講演

ザンビア大学位置図





ザンビア大学施設配置図

目 次

序 文
写 真
地 図

1. 実施協議調査団派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 日 程 表	3
1-4 主要面談者	4
2. 要 約	6
3. 討議議事録の交渉経緯	7
3-1 交 渉 経 緯	7
3-2 討議議事録、暫定実施計画(TSI)、ミニッツ等	12
3-3 討議議事録、ミニッツ等の訳文	58
4. プロジェクト実施上の留意点	80
4-1 実 施 体 制	80
4-2 実 施 計 画	81
5. その他特記すべき事項	82
5-1 プロジェクトの評価	82
5-2 ザンビア大学の自助努力	89
5-3 開発計画との関連	94
5-4 他機関、省庁及び他国の協力	94
5-5 本プロジェクトと女性	96
5-6 本プロジェクトと環境	96
5-7 機材の現地調達	96
5-8 機材供与計画	96

5-9	ロジカルフレームワークの検討	97
5-10	感染防止策	97
5-11	インフレ率	98
5-12	安全対策	98

附属資料

1.	スクールミーティング資料	99
2.	機材リスト(無償資金協力により供与された機材)	192

1. 実施協議調査団派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

ザンビアは約320万頭の牛を保有する牧畜国であるが、家畜疾病による低生産性を克服するため家畜疾病の予防治癒、家畜の繁殖障害、栄養障害の改善にたずさわる獣医師を育成する機関の設立が急務であった。しかし、ザンビアをはじめ近隣の南部アフリカ諸国には獣医科大学も獣医学部もなかった。

このような背景のもとに、ザンビア大学獣医学部が我が国の無償資金協力により1984年に建設され、1985年1月からプロジェクト方式技術協力を行ってきた。その結果、獣医師養成の教育制度はほぼ確立され、学生数は年々増加し、その質も向上してきた。

ザンビア国政府は、これまでの成果を踏まえながら、「ザンビア人教官がザンビア人学生に国際レベルの獣医学教育を行うと同時に、獣医学研究の中心となる獣医学部の確立—ザンビアナイゼーション」を目指して、大学院教育の導入を柱としたプロジェクト方式技術協力フェーズⅡ及び無償資金協力による施設、機材の整備について我が国に協力を要請してきた。

この結果、平成3年9月10日から9月27日まで、プロジェクトの進捗状況の確認、第Ⅱフェーズの要請の内容及びザンビア側のプロジェクト実施計画と実施体制を把握し、我が国のプロジェクト方式技術協力の可能性について協議し確認することを目的に、事前協議調査団が派遣された。この結果、現行プロジェクトは予定どおりほぼ満足な結果をもって終了できる見通しであること、ザンビア側のフェーズⅡ計画の要請は妥当なものと考えられること、フェーズⅡプロジェクトの実施運営に向けてのザンビア側の姿勢は評価できること、フェーズⅡプロジェクトの協力内容は、フェーズⅠプロジェクトの成果、実績を踏まえた適正な規模・内容のものであること、等が確認された。

ところが、平成4年6月上旬に外務省より無償資金協力年次協議調査団がザンビア共和国に派遣され、無償資金協力の優先度について協議・現地調査が行われた結果、南部アフリカ地区は旱魃の影響で食料や地下水による飲料水開発等の緊急案件の優先度が高く置かれることになり、本プロジェクトで申請されていた熱帯動物病研究センター案件は実現の目処が立たなくなっていた。このような状況の変化によりフェーズⅡ協力計画は無償資金協力を前提としない内容を急遽再検討した結果、現有施設資機材で対応可能な範囲として、修士課程を中心とする大学院教育の確立をフェーズⅡ協力の主要課題とすることになった。

上記の状況を踏まえ、①ザンビア人教官を養成するために必要な大学院教育の確立（修士課程を中心とする）、②これまでに確立された学部教育の充実強化、③獣医学部研究及び普及体制の充実強化、等の内容について確認、協議し、討議議事録を作成署名するために実施協議調査団が派遣された。

1-2 調査団の構成

<u>氏名</u>	<u>担当業務</u>	<u>所属先</u>
金川 弘 司	団長・総括	北海道大学獣医学部教授
萩尾 光 美	獣医教育	北海道大学獣医学部助教授
安藤 孝 之	協力企画	国際協力事業団農業開発協力部 畜産技術協力課

1-3 日程表

日順	月 日	曜日	
1	6 / 28	日	東京発 ロンドン着
2	29	月	ロンドン発
3	30	火	ルサカ着 JICA事務所打合せ 専門家チームとの打合せ
4	7 / 1	水	UNZA副学長・獣医学部長表敬・打合せ 日本大使館表敬・打合せ 計画開発協力省・教育省表敬・打合せ UNZA獣医学部との協議(1) ①プロジェクトの進捗状況について ②他国による援助活動について
5	2	木	UNZA獣医学部との協議(2) ③フェーズⅡプロジェクト案について
6	3	金	合同委員会（上記①、②、③）
7	4	土	資料整理
8	5	日	資料整理
9	6	月	専門家との打合せ、安全対策調査 UNZA獣医学部施設視察、供与機材、無償資金協力の機材の調査、現地調達の可能性調査
10	7	火	討議議事録、暫定実施計画、ミニッツ最終協議・作成
11	8	水	合同委員会（最終） 討議議事録、暫定実施計画署名 金川教授・萩尾助教授による記念講演
12	9	木	計画開発協力省報告 日本大使館報告 教育省報告 JICA事務所報告 ルサカ発
13	10	金	ロンドン着 ロンドン発
14	11	土	東京着

1-4 主要面談者

(1) Ministry of Planning and Development Cooperation (計画開発協力省)

・ Mr. M. C. Soko Director,
Economic and Technical Cooperation Department
(経済技術協力局長)

・ Mr. W. C. Ngomalala

・ Mr. Mushibwe Economist

(2) Ministry of Education (教育省)

・ Mr. K. A. Chali Deputy Permanent Secretary (次官補)

(3) Ministry of Agriculture, Food and Fisheries (農業省)

・ Dr. H. G. B. Chizyuka Director, Department of Veterinary and Tsetse
Control Services (獣医ツェツェ防除局)

(4) University of Zambia (ザンビア大学)

・ Prof. Andrew A. Siwela Acting Vice-Chancellor (副学長代行)

・ Ms. J. M. S. Calder Special Administrative Assistant to the
Vice-Chancellor

< School of Veterinary Medicine (獣医学部) >

・ Prof. C. E. A. Lovelace Acting Dean (学部長代行)

・ Dr. M. M. Musonda Acting Assistant Dean (Postgraduate)
(学部長補佐代行 (大学院教育))

・ Dr. E. T. Mwase Acting Assistant Dean (Undergraduate)
(学部長補佐代行 (学部教育))

・ Dr. G. S. Pandey Disease Control Dept. (疾病予防学講座)

・ Dr. H. Chitambo Disease Control Dept.

・ Dr. L. M. Tuchili Disease Control Dept.

・ Dr. D. N. Kisauzi Head, Biomedical Sciences Dept. (生物医学講座主任)

・ Prof. J. Omamegbe Head, Clinical Studies Dept. (臨床獣医学講座主任)

・ Mr. W. Benkele Chief Technician, Central Service Dept.

(獣医学部セントラルサービス主任技官)

・ Mr. A. Chishimba Administrative Assistant to the Dean

(庶務担当学部長補佐)

(5) UNZA 獣医学部技術協力派遣専門家

(長期専門家)

- | | |
|----------|-------------------------|
| ・堤 可 厚 | チームリーダー兼寄生虫学（基礎獣医学講座主任） |
| ・小瀬川 修 | 業務調整 |
| ・梶 隆 | ウイルス学（疾病予防学講座主任） |
| ・関 直 樹 | 寄生虫学 |
| ・廉 野 光 明 | 機械保守指導 |

(短期専門家)

- | | |
|----------|-------|
| ・浜 名 克 己 | 繁殖学 |
| ・金 内 長 司 | 環境衛生学 |

(6) UNZA 獣医学部青年海外協力隊員

- | | |
|----------|-------|
| ・奥 村 正 裕 | 臨床病理学 |
| ・広 瀬 圭 | 微生物学 |

(7) 日本大使館

- | | |
|----------|--------|
| ・杉 浦 芳 樹 | 特命全権大使 |
| ・太 田 清 和 | 参事官 |
| ・前 田 哲 | 二等書記官 |
| ・小 原 耕 平 | 二等書記官 |

(8) JICA ザンビア事務所

- | | |
|----------|-----|
| ・神 谷 弘 司 | 所 長 |
| ・鍋 屋 史 郎 | 所 員 |

2. 要 約

2-1 プロジェクトの概要

討議議事録 (Record of Discussions, R/D) に定められたプロジェクトの概要は次のとおりであり、他の点についてはフェーズ1のR/Dと大幅な変更はない。

(1) 協力期間

1992年7月22日から5年間

(2) プロジェクトの目的

ザンビア人教官を養成するため獣医研究と普及活動を強化しつつ、大学院教育プログラムの確立を目的とし(大学院教育は修士課程を中心とする)、同時にプロジェクトは、既に確立されている学部教育プログラムの充実強化を日本の技術協力の目的とする。さらに、このプロジェクトにより増加したザンビア人獣医師により畜産業を開発し、これにより人々の健康と福祉の全般的な水準の改善に資することをプロジェクトの目的とする。

(3) 専門家派遣

長期専門家：8名を越えない範囲

短期専門家：年間6名を越えない範囲

プロジェクトの初期の段階では専門家は学部教育と大学院教育の両方にかかわるが、プロジェクトの進捗とともに専門家の学部教育と学部の管理業務量は次第に減少し、大学院教育と研究活動へ移行する。

(4) 研修員受入れ

年間5名を越えない範囲

3. 討議議事録の交渉経緯

3-1 交渉経緯

ザンビア側からは1991年9月の評価調査団との協議結果を前提としたR/D及び大課題から小課題に至る詳細な暫定実施計画(Tentative Schedule of Implementation, TSI)の提出があり、国内委員会で検討され、承認された。このR/D及びTSIは無償資金協力による熱帯動物病研究センターの建設を前提とし、このセンターでの研究活動を中心とした博士課程までを対象とした内容であった。

その後、6月に外務省による無償資金協力年次協議調査団がザンビア共和国に派遣され、ザンビア国政府との協議及び現地調査が行われた。年次協議の結果が熱帯動物病研究センターの建設すなわちフェーズⅡ協力計画の骨子に重要な要素であるため、年次協議調査団の帰国を待って、非公式ながら関係者にザンビア共和国に対する無償資金協力事業のプライオリティを確認した。その結果、ザンビア共和国を含めた南部アフリカ地域は大旱魃に見舞われており、地下水開発などの緊急性の高い案件に高い優先度が与えられ、熱帯動物病研究センター実現の可能性は低かった。

このような前提条件の急変により、高度な研究を前提とした大学院教育、特に博士課程の見直しが必要となった。現有の施設、機材と今後プロジェクト方式技術協力で供与され得る規模の資機材で対応可能な活動内容、すなわち、修士課程の確立をフェーズⅡ協力の基本とすることとなった。この方針に従って、R/D及びTSIの修正が行われた。

以下にフェーズⅠとフェーズⅡとの違い及びフェーズⅡ協力の内容の変更に伴うR/D及びTSIの修正点について示す。

1. R/D

1) 署名者の変更

フェーズⅠでは実施協議調査団長と国家開発計画委員会(NCDP: National Commission for Development Planning)の代表者との間で署名が行われた。プロジェクトの実施主体はザンビア大学であるので、ザンビア共和国側の署名者をザンビア大学の代表者とした。前政権時には大統領が学長を兼務していたが、この時点では学長が政権交替に伴い不在であるうえ、副学長も代行であったが、実質上のザンビア大学の代表者である副学長代行が署名することになった。

一方、NCDPは計画開発協力省(MPDC: Ministry of Planning and Development Cooperation)と名称が変更されていたが、MPDCの代表者を副署名者とする事となった。

2) 「付属文書 1. 両国政府の協力 1. 」はフェーズⅠからフェーズⅡに向けて次のように変わった。

フェーズⅠ：日本国政府とザンビア共和国政府は、国際的に認められる水準の獣医教育制度を確立、もってザンビア共和国における家畜生産の振興及び獣医公衆衛生の改善に寄与するため、「ザンビア大学・獣医学教育プロジェクト」の実施において相互に協力を行う。

フェーズⅡ：日本国政府とザンビア共和国政府は、獣医研究と普及活動を充実強化しつつ、ザンビア人アカデミックスタッフを育成するための大学院教育プログラムを確立するため、ザンビア大学獣医学部技術協力計画フェーズⅡの実施において相互に協力を行う。

3) 「別添 1. 基本計画 1. プロジェクトの目的」は、JICAザンビア事務所より、ロジカルフレームワークを本プロジェクトへ導入することが提案されるとともに、ロジカルフレームワークにおける上位概念を用いることとなった。

フェーズⅠ：UNZA獣医学部において、国際的に認められる水準の獣医教育を確立し、維持すること。

フェーズⅡ：プロジェクトの目的は、増加したザンビア人獣医師により畜産業を開発し、これにより人々の健康と福祉の全般的な水準の改善に資する。

4) 「別添 1. 基本計画 2. 日本の技術協力の目的」は、フェーズⅠからフェーズⅡに向けて次のように変わった。

フェーズⅠ：UNZA獣医学部において、獣医教育、研究、普及を通じて獣医病理学・寄生虫学・微生物学講座及び疾病予防学講座を中心として、獣医教育、関連する研究、調査活動の円滑な実施に協力すること。

フェーズⅡ：プロジェクトは技術協力を通じ、ザンビア人のアカデミックスタッフの育成のため獣医研究と普及活動を強化しつつ、大学院教育プログラムの確立を目的とする。

同時にプロジェクトは既に確立されている学部教育プログラムの充実強化を目的とする。

5) 「別添 1. 基本計画 3. プロジェクトの活動」は、フェーズⅠからフェーズⅡに向けて次のように変わった。

フェーズⅠ：上記の目的を達成するため次の協力事業を行う。

A. 獣医教育

- 1) カリキュラム企画
- 2) 獣医学生に対する講義、実験実習、野外実習
- 3) 教材の開発、製作（テキスト、視聴覚機材、標本、ほか）
- 4) 獣医情報、データの収集、分析
- 5) その他の獣医教育に必要な活動

B. 獣医学研究

獣医学教育に関連する試験研究はUNZA獣医学部において、獣医試験研究機関及び他の関係機関と協力して実施される。

C. 家畜疾病予防活動に関連する獣医学普及（学外教育）

- 1) 家畜病院における臨床活動
- 2) 野外獣医臨床サービス
- 3) 家畜衛生、公衆衛生知識の普及

フェーズⅡ：上記目的を達成するために、下記分野の活動を行うのに必要な専門家及び協力隊員の派遣、ザンビア人カウンターパートの日本での研修及び機材供与等の日本の技術協力が実施される。

- 1) 大学院教育の確立
- 2) 研究活動の強化
- 3) 獣医学部教育の充実強化
- 4) 普及サービスの強化

- 6) 「別添 Ⅱ. 日本人専門家」は、フェーズⅠのR/D締結時には講座制が確立していなかったが、その後4つの講座、すなわち生物医学講座、基礎獣医学講座、疾病予防学講座及び臨床獣医学講座の構成が確立されたので、フェーズⅠとフェーズⅡのR/Dでは表現が変更された。

フェーズⅠでは（注）として「UNZA獣医学部の整備過程において、相当の必要が生じた場合上記2講座以外の講座にかかわる分野の専門家派遣の可能性を排除するものではない」とされ、生物医学講座及び臨床獣医学講座への専門家派遣も必要に応じて行うこととされていた。この点は本プロジェクトが学生に対する教育のプロジェクトであるため、全ての講座の講義、実習がバランス良くなされなければならないことから、必要が生じ、日本で適任者が確保された場合に対応することとされた。実際上記2講座以外の講座にも専門家が派遣され高い評価を得てきた。このような背景からザンビア側はフェーズⅡにおいても同様に2講座以外の講座での専門家派遣を行える旨の記載を強く要望した。しかし、日本の外務省の判断としては、2講座以外の講座といえどもこの2講座に強くかかわっており実際に専門家を派遣している実績があること、R/D中には例外的な表現を避けるべきであることなどから、R/D中には「2講座以外の講座に係る分野の専門家派遣の可能性」の記載は避けるべきであり、また必要がなく、ミニッツにこの記載を行うようコメントがあった。この点についてザンビア側も了承した。

フェーズⅠ：UNZA獣医学部の整備過程において、相当の必要が生じた場合上記2講座以外の講座にかかわる分野の専門家派遣の可能性を排除するものではない。

フェーズⅡ：削除（ミニッツに「主に」2講座の専門家」と記載）

- 7) 「別添 Ⅱ. 日本人専門家（注）」に、フェーズⅠの獣医学部教育の確立からフェーズⅡの大学院教育の確立へと技術協力の目的が変化することを反映し、専門家の活動が大学院教育へ移行することを明記した。フェーズⅠでは専門家自ら獣医学部教育を実施しつつカウンターパートの育成を行っていたが、そもそも本プロジェクトの開始によりザンビア初の獣医学部が設立され、この卒業生の中から将来のアカデミックスタッフの多くを養成せざるをえず、フェーズⅠの終了に際しようやく59名の卒業生を輩出し獣医学部教育が軌道に乗ってきた段階であり、卒業生を含めカウンターパートとしてのアカデミックスタッフの養成がフェーズⅡの鍵である。このような事情から事前調査団派遣時にも十分協議されたことであるが、フェーズⅡ開始と同時に獣医学部教育から大学院教育へ移行することができないため、アカデミックスタッフが養成されるまでの間は学部教育も引き続き専門家により実施せざるをえない。以上の背景からフェーズⅡのR/Dに次の表現が加えられた。

フェーズⅡ：プロジェクトの初期の段階では専門家は学部教育と大学院教育の両方にかかわる。しかし、プロジェクトの進捗とともに専門家の学部教育と学部の管理業務の量は次第に減少し、大学院教育と研究の監督へ移る。

- 8) 「Ⅲ. 特権、免除及び便宜」の項目は基本的な事項であるにもかかわらず、フェーズⅠのR/Dでは記載されていなかったため、フェーズⅡのR/Dに加えた。
- 9) 「Ⅳ. 合同委員会 2. 構成」のザンビア側の委員に、UNZA獣医学部長補佐（学部教育）のほかにUNZA獣医学部長補佐（大学院教育）が任命されたことにより委員に加えられたほか、獣医学部講座主任、計画開発協力省の代表者、教育省の代表者も委員に加えられた。これは合同委員会の強化を意味しているが、従来より（注）日本大使館員及びザンビア政府職員は合同委員会にオブザーバーとして出席できる、との規定により実質上出席は得られていた。

2. T S I

- 1) プロジェクトより提出のあったT S Iは無償資金協力事業による熱帯動物病研究センターの建設が前提とされているうえ、小課題に至る詳細な内容であった。前述したようにフェーズⅡの活動内容の前提が突然変更となったため、T S Iはプロジェクトより提出のあった案を基本としつつ、修士課程を中心とした大学院課程の確立を前提とし、大課題及び中課題のみとした。
- 2) 「Ⅰ. UNZA ACTIVITIES (4) Ph.D. Course Programme 1) Programme development」及び「Ⅱ. PROJECT ACTIVITIES 1. Postgraduate Education Programme (3)

Programme developemnt for Ph.D. courses] について

獣医学部教育をザンビア人の手で行うザンビアナイゼーションのためにはザンビア人アカデミックスタッフの養成が必須であり、アカデミックスタッフ任用の資格には博士号の取得が必須である。現在博士号の取得は主に日本の文部省特別枠による留学制度に頼っているが、枠は年間1名にすぎない。このため修士課程の確立後は早急に博士課程の検討を行う必要がある。フェーズⅡの主目的は修士課程を中心とした大学院課程の確立であるため日本の協力は修士課程の確立を中心とするが、修士課程の確立がなされ条件が整った時点で博士課程のプログラムの検討を開始する。協力開始4年目と5年目に破線で示されているのは、この期間に前述の条件整備がされた場合、博士課程のプログラムの検討を開始する。

3) 「2. Research activities (1) Research on diseases of domestic animals and wild life in Zambia」について

アフリカには野生動物から家畜や人に感染する病気（人畜共通伝染病）が数多く存在しているため、獣医畜産上の観点以外にも人の病気を防ぐうえからも野生動物の研究は重要である。

4) 「2. Research activities (2) Research on Public Health Aspects」について

獣医師の重要な活動分野としては獣医畜産以外に、水・食料などの公衆衛生も含まれている。フェーズⅠ期間中に派遣された公衆衛生分野の専門家の調査によって飲料水から大腸菌が検出されるなど人間に基本的に必要な飲料水が汚染されていることがわかり、BH N (Basic human needs) の改善における獣医師の役割が明らかであり、今後ますます重要となる。

5) 「3. Maintenance and strengthening of undergraduate education programme」では2年目までが実線、3年目以降が破線となっているが、これは後述するようにフェーズⅠでは基本的な獣医学部の確立はされたものの教鞭をとるべきアカデミックスタッフの育成は今後の課題であるため、専門家の活動を一挙に獣医学教育から大学院教育へ移行することはできないので、破線の期間で大学院教育へ移行することになる。これは事前協議調査団報告書 P.56 に詳細が説明されている。

3. ミニッツ

第1、2回 UNZA/JICA Joint Committee のミニッツ全文を 3-2 に示す。

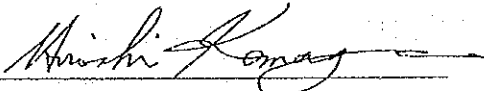
THE RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF ZAMBIA
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
THE UNIVERSITY OF ZAMBIA: VETERINARY EDUCATION PROJECT (PHASE - II)

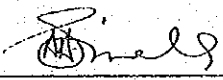
The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. Hiroshi Kanagawa, Professor of the School of Veterinary Medicine, Hokkaido University, visited the Republic of Zambia from June 30, 1992 to July 9, 1992 for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the University of Zambia: Veterinary Education Project (Phase - II).


During its stay in the Republic of Zambia, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Zambian authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the above-mentioned project.

As a result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Lusaka, July 8, 1992


Prof. Hiroshi Kanagawa
Leader,
Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation
Agency, Japan


Prof. Andrew A. Siwela
Acting Vice-Chancellor,
University of Zambia,
Republic of Zambia


Mr. M. C. Soko
Director,
Economic and Technical Cooperation
Department,
Ministry of Planning and Development
Cooperation,
Republic of Zambia

THE ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of Japan and the Government of the Republic of Zambia will cooperate with each other in implementing the technical cooperation program concerning the University of Zambia: Veterinary Education Project (Phase - II) (hereinafter referred to as "the Project") for the purpose of establishing the postgraduate education programme in order to produce Zambian academic staff, while strengthening the veterinary research and extension activities.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex I.

II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense services of the Japanese experts as listed in Annex II through the normal procedures under the Technical Cooperation Scheme of Japan.
2. The Japanese experts referred to in 1 above and their families will be granted in the Republic of Zambia the privileges, exemptions and benefits as listed in Annex III and will be granted privileges, exemption and benefits no less favourable than those granted to experts of third countries or international organizations performing similar missions.

III. PARTICIPATION OF JAPAN OVERSEAS COOPERATION VOLUNTEERS

Japan Overseas Cooperation Volunteers to be sent under the Exchange of Notes between the Government of Japan and the Government of the Republic of Zambia on April 19, 1970 may participate in the Project. For this purpose the schedule referred to in 1 of the said Notes will be separately agreed upon by the authorities concerned of the both Governments.

IV. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense such machinery, equipment and other materials necessary for the implementation of the Project as listed in Annex IV, through the normal procedures under the Technical Cooperation Scheme of Japan.
2. The articles referred to in 1 above will become the property of the Government of the Republic of Zambia upon delivery c.i.f. to the Republic of Zambia authorities concerned at the ports and/or airports of disembarkation, and will be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in Annex II.

V. TRAINING OF ZAMBIAN PERSONNEL IN JAPAN

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to receive at its own expense the Republic of Zambia personnel connected with the Project for technical training in Japan through the normal procedures under the Technical Cooperation Scheme of Japan.
2. The Government of the Republic of Zambia will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Zambia personnel from technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

VI. SERVICES OF ZAMBIAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of Zambia, the Government of the Republic of Zambia will take necessary measures to secure at its own expense necessary services of Zambia counterpart and administrative personnel as listed in Annex V.

AK

AK

AK

2. The Government of the Republic of Zambia will allocate the necessary number of suitably qualified personnel corresponding to each Japanese expert to be dispatched by the Government of Japan as specified in Annex II for the effective and successful transfer of technology under the Project.

VII. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF ZAMBIA

1. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of Zambia, the Government of the Republic of Zambia will take necessary measures to provide at its own expense:
 - (1) Services of the Zambian counterpart personnel and administrative personnel as listed in Annex V ;
 - (2) Land, buildings and facilities as listed in Annex VI ;
 - (3) Supply or replacement of machinery, equipment, instrument, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided through JICA under IV-1 above;
 - (4) Transportation facilities and travel allowance for the Japanese experts for the official travel within the Republic of Zambia;
 - (5) Suitably furnished accommodations for the Japanese experts and their families.

2. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of Zambia, the Government of the Republic of Zambia will take necessary measures to meet:
 - (1) Expenses necessary for the transportation within the Republic of Zambia of the articles referred to in IV-1 above as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
 - (2) Customs, duties, internal taxes and any other charges, imposed in the Republic of Zambia on the articles referred to in IV-1 above;
 - (3) All running expenses necessary for the implementation of the Project.

A.K.

A

AK

VIII. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The Vice-Chancellor of the University of Zambia (hereinafter referred to as "UNZA") will bear overall responsibility for the implementation of the Project.
2. The Dean of the School of Veterinary Medicine, UNZA, as the Head of the Project, will be responsible for the administrative and managerial matters of the Project.
3. The Dean of the School of Veterinary Medicine, UNZA, will coordinate the implementation of the Project. Collaboration with the Ministry of Agriculture, Food and Fisheries and the national veterinary and agricultural research institutions will be encouraged for the smooth implementation of the Project.
4. UNZA will coordinate the activities of the Project with those of other governments or international organizations.
5. The Japanese Team Leader and Coordinator will provide necessary recommendation and advice on technical and administrative matters concerning the implementation of the Project to the Head of the Project.
6. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the Zambian counterpart personnel on matters pertaining to the implementation of the Project.
7. For the effective and successful implementation of the Project, a Joint Committee will be established with the function and composition as referred to in Annex VII.
8. The Japanese experts will observe regulations of UNZA, however, when any differences occur between the two sides within the framework of the technical cooperation project, the Joint Committee will deal with the matter.

H.R.

Dr

AT

IX. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of the Republic of Zambia undertakes to bear claims, if any arise, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Republic of Zambia except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

X. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

XI. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be five(5) years from July 22, 1992.

A.K.

Al

AST

ANNEX

I. MASTER PLAN

1. OBJECTIVES OF THE PROJECT

The objectives of the Project is to develop livestock industry with increased number of Zambian trained veterinarians, thus to lead to an improvement in the overall standards of human health and well-being.

2. OBJECTIVES OF JAPANESE TECHNICAL COOPERATION

The Project will aim, through technical cooperation, at establishing the postgraduate education programme in order to produce Zambian academic staff, while strengthening the veterinary research and extension activities.

At the same time, the Project will also aim at maintaining and strengthening the undergraduate education programme which has already been established.

3. ACTIVITIES OF THE PROJECT

To attain the above-mentioned objectives, Japanese technical cooperation will be rendered in the form of the dispatch of Japanese experts and volunteers, Zambian counterpart training in Japan and equipment supply necessary for pursuing the activities in the areas listed below:

- (1) Establishment of postgraduate education programme
- (2) Strengthening of research activities
- (3) Maintenance and strengthening of undergraduate education programme
- (4) Strengthening of extension services

H.R.

D.

AK

II. JAPANESE EXPERTS

1. Team Leader
2. Coordinator
3. Experts in the fields of Paraclinical Studies and Disease Control, with a title of such as:
 - (1) Professor
 - (2) Associate Professor
 - (3) Senior Lecturer
 - (4) Lecturer
 - (5) Technician

Note:

- i. The Team Leader may serve concurrently as an expert in any field listed in II-3 above.
- ii. Long-term Experts to be dispatched including the Team Leader, Coordinator and Experts from among the fields mentioned in II above will not exceed eight (8) in total at any given time. "Long-term" is defined as one year and over.
- iii. Short-term Experts in the relevant fields may be dispatched not exceeding six (6) annually when necessity arises for the smooth implementation of the Project. "Short-term" is defined as less than one year.
- iv. Experts will be involved both in undergraduate and postgraduate education programmes at an early stage of the Project. However, their workload on undergraduate education programme and departmental administrative work will be gradually reduced in the course of the Project and shifted to postgraduate education programme and research supervision.
- v. JOCV volunteers will be assigned as lecturer III to give lectures and/or practicals for undergraduate education programme.

III. PRIVILEGES, EXEMPTIONS AND BENEFITS

1. Exemptions from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with the living allowances remitted from abroad.
2. Exemptions from import duties and any other charge in respect of personal and household effects including one motor vehicle per expert which may be brought into the Republic of Zambia from abroad.
3. In the case of accident or emergency, the Government of the Republic of Zambia will extend assistance with all its available means to obtain the medical and other necessary assistance to the Japanese experts and their families.

IV. LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. Equipment includes machines, tools, spare parts and other materials necessary for the activities of the Project referred to in I-3 above. A list of items and specifications of the equipment will be made in close consultation with the Japanese Experts.
2. Vehicles for use in field activities

V. LIST OF ZAMBIAN COUNTERPARTS AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Head of the Project (Dean of the school of Veterinary Medicine)
2. Counterpart personnel in the academic fields of the School of Veterinary Medicine, with a title of such as;
 - (1) Professor
 - (2) Associate Professor
 - (3) Senior Lecturer
 - (4) Lecturer
 - (5) Staff Development Fellow
 - (6) House Surgeon
 - (7) Chief Technician

(8) Technician

3. Administrative Personnel

UNZA administration

VI. LIST OF LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land for the school of Veterinary Medicine, Great East Road Campus of UNZA

2. Buildings and Facilities

(1) All buildings and facilities established in Phase-I

(2) University Farm (Liempe)

VII. THE JOINT COMMITTEE

1. Functions

The joint committee will meet at least once a year and whenever necessity arises, and work:

- (1) To draw the Annual Work Plan of the Project in line with the Tentative Schedule of Implementation formulated under the framework of this Record of Discussions;
- (2) To review the achievements of the above-mentioned Annual Work Plan as well as the overall progress of the Project; and
- (3) To review and exchange views on major issues arising from or in connection with the Project.

2. Composition

(1) Chairman:

Vice-Chancellor of UNZA

(2) Members:

1) Zambian side:

- i) Dean, School of Veterinary Medicine
- ii) Assistant Dean (undergraduate), School of Veterinary Medicine
- iii) Assistant Dean (postgraduate), School of Veterinary Medicine
- iv) Departmental Heads, School of Veterinary Medicine

- v) Representative of Ministry of Planning and Development
Cooperation
- vi) Representative of Ministry of Education
- vii) Director, Department of Veterinary and Tsetse Control Services,
Ministry of Agriculture, Food and Fisheries

2) Japanese side:

- i) Team Leader
- ii) Coordinator
- iii) Other Experts and personnel appointed by the Team Leader
- iv) Resident Representative of JICA Zambia Office

Note: Officials of the Embassy of Japan and those of the Government of Zambia may attend the Joint Committee as observers.

A.K.

B.

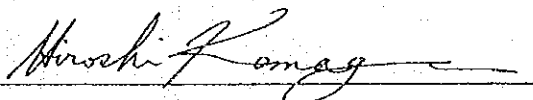
A.K.

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
THE UNIVERSITY OF ZAMBIA: VETERINARY EDUCATION PROJECT (PHASE - II)
IN THE REPUBLIC OF ZAMBIA

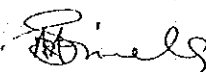
Within the scope of the Record of Discussions signed on July 8, 1992, the Japanese Implementation Survey Team and the authorities concerned of the Government of the Republic of Zambia have jointly formulated the Tentative Schedule of Implementation for smooth implementation of Technical Cooperation for the Veterinary Education Project (Phase - II) (hereinafter referred to as "the Project" as annexed hereto.

This Tentative Schedule of Implementation is subject to the condition that the necessary budget will be allocated for the Project and also subject to change in the course of project implementation within the framework of the Record of Discussions.

Lusaka, July 8, 1992



Prof. Hiroshi Kanagawa
Leader,
Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation
Agency, Japan



Prof. Andrew A. Siwela
Acting Vice-Chancellor,
University of Zambia,
Republic of Zambia

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION FOR THE UNIVERSITY OF ZAMBIA: VETERINARY EDUCATION PROJECT (PHASE - R)

I. UNZA ACTIVITIES

Item	1st year	2nd year	3rd year	4th year	5th year
1. Under Graduate Education Programme (1) Programme development (2) Student enrolment	July 22. 1992				July 21. 1997
2. Postgraduate Education Programme (1) Master Course Programme 1) Programme development 2) Student enrolment					
(2) House Surgeon Programme 1) Programme development					
(3) Staff Development Fellow (SDF) Programme 1) Programme development					
(4) Ph.D. Course-Programme- 1) Programme development					
3 Continuing Professional Development (CPD) 1) Programme development					

II. PROJECT ACTIVITIES

Item	1st year	2nd year	3rd year	4th year	5th year
1. Postgraduate Education Programme					
(1) Programme development for Master's courses					
(2) Establishment of Master's courses					
(3) Programme development for Ph.D courses					
(4) Supervision of House Surgeon and SDF Programme					
(5) Participation in Continuing Professional Development Programme					
2. Research activities					
(1) Research on diseases of domestic animals and wild life in Zambia					
(2) Research on Public Health Aspects					
3. Maintenance and strengthening of undergraduate education programme					
(1) Programme development					
(2) Lecture/practice to the students					
(3) Development of teaching materials					
4. Strengthening of extension services					
(1) Development of diagnostic laboratory					
(2) Organizing veterinary conference and seminars					
(3) Publication of Zambia Veterinary Journal etc					

III. JAPANESE CONTRIBUTION

Item	1st year	2nd year	3rd year	4th year	5th year
1. Dispatch of Long-Term Experts (8ps/y) (1) Team Leader (2) Coordinator (3) Academic and Research Staff (4) Technician					
2. Dispatch of Short-Term Experts (not exceeding 8ps/y)					
3. Dispatch of JOCV personnel					
4. Provision of machinery, equipment and materials					
5. Zambian Counterpart Training in Japan (Maximum 5 persons per year)					
6. Dispatch of Survey Missions	Plan Con-	Technical	Technical	Technical	Evaluation
	sultation	Guidance	Guidance (Mid-term Evaluation)	Guidance	Evaluation

IV. ZAMBIAN RESPONSIBILITY

from	1st year	2nd year	3rd year	4th year	5th year
<p>1. Counterparts</p> <p>(1) Head of the Project (The Dean)</p> <p>(2) Academic Staff</p> <p>1) Professor</p> <p>2) Associate Professor</p> <p>3) Senior Lecturer</p> <p>4) Lecturer</p> <p>(3) Technical Staff</p> <p>1) Chief Technician</p> <p>2) Technician</p> <p>(4) Others</p> <p>1) Teaching ASSISTANTS</p> <p>2) House Surgeon</p> <p>(5) Postgraduates</p> <p>1) Staff Development Fellows</p> <p>2) Students in Master's course</p> <p>3) Students in Ph.D course</p> <p>(6) Undergraduate Students</p> <p>1) 2nd-year students</p> <p>2) 3rd year students</p> <p>3) 4th year students</p> <p>4) 5th year students</p> <p>5) 6th year students</p>					

AM

Item.	1st year	2nd year	3rd year	4th year	5th year
(7) Administration					
1) Office of the Vice Chancellor					
2) Office of the Dean					
3) Staff Development Office					
4) Planning Office					
5) Office of the Registrar					
6) Bursar					
7) <u>Office of the Dean of Students Affairs</u>					
8) The School of Agricultural Sciences					
9) The School of Natural Sciences					
10) The School of Graduate Studies					
2. Provision of Running Expenses of the Project including					
1) All buildings and facilities established for Phase I					
2) University farm (Liembe)					
3. Provision of Land, Building etc.					
1) Land					
2) Building					
3) Facilities					
4) Other related facilities					

H.K.

AA

THE UNIVERSITY OF ZAMBIA

MINUTES OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JICA IMPLEMENTATION SURVEY MISSION
AND THE UNIVERSITY OF ZAMBIA ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
PHASE II OF THE UNIVERSITY OF ZAMBIA : VETERINARY EDUCATION PROJECT

Present at meeting: (See attached Appendix)

Date and time of meeting: Friday July 3, 1992 at 08.30 hours

Venue of meeting: University of Zambia, Senate Committee Room I

INTRODUCTORY REMARKS

- 1.1 Professor Siwela, Acting Vice-Chancellor and Chairman of the UNZA/JICA Joint Committee for the University of Zambia :
Veterinary Education Project called the meeting to order and extended a warm welcome to all members on behalf of himself and the Co-Chairman Professor Kanagawa, Head of the JICA Implementation Survey Mission. The Chairman EXPRESSED his hope that the visit to and discussions with the School of Veterinary Medicine had been useful and fruitful.
- 1.2 He NOTED that the JICA Mission had come to review the implementation of the Project for Phase II. He ALSO NOTED that the Joint Committee met each year to review the progress of the Project and consider the activities listed in the TSI. He COMMENTED that he believed that the Project was being implemented satisfactorily and HOPED that the discussion with the JICA Mission would be fruitful.
2. Introductory Remarks of Professor Kanagawa Head of JICA Mission:
Professor Kanagawa thanked the Chairman for his welcome remarks and went on to explain the purpose of the Mission. He referred to the Terms of Reference (attached) of the Mission and EXPLAINED briefly that their purpose was to review progress of the Project during Phase I and come up with an agreement for extension of

the Project and Tentative Schedule of Implementation (TSI) for Phase II. He NOTED that an indication of success of the Project during Phase I had been the production of about 60 graduates. He EXPRESSED thanks particularly to the Acting Dean and Staff of the School and the JICA Team Leader and JICA Experts for their contribution in the successful implementation of Phase I of the Project. He HOPED that there would be no major changes regarding the extension and that an agreement would be signed at the end of the visit of this Mission. He ALSO EXPLAINED that recently a Grant Aid Consulting Mission had visited Zambia and had recommended against the establishment of a Veterinary Research Centre in Phase II as the Japanese Government would concentrate assistance to Zambia on drought relief such as food aid and water supply. Professor Kanagawa added however that he HOPED that the establishment of a Veterinary Research Centre would be considered again sometime in the future. He REPORTED that JICA support for Phase II of the Project would be provided if it was agreed that it would not include the establishment of a Veterinary Research Centre.

- 3.1 The Chairman thanked Professor Kanagawa for his brief. He NOTED that the priorities had been changed due to the drought situation and EXPRESSED appreciation for the efforts and support of the Japanese Steering Committee of the Veterinary Education Project whom he felt had contributed greatly towards having an extension to the Project considered favourably.
- 3.2 He CONFIRMED that the University would include the establishment of the Veterinary Research Centre when drawing up its Strategic Plan with a hope that when the drought situation changed this matter would be considered for support. He REITERATED the appreciation of the University and the School of Veterinary

Medicine for the support and efforts that had been made regarding this and all matters relating to the Project.

4. Introduction of members were made and the members AGREED that the Agenda for this meeting would follow the same that had been prepared for the School meetings (attached).

1. SCHOOL PROGRESS REPORT

The Acting Dean of the School was called upon to highlight some matters raised during the School meetings with the JICA Mission.

- 1.1 The Acting Dean REPORTED that the following had been highlighted and discussed at length in the School meetings:

- (i) There were too few research positions
- (ii) There were too few training scholarships particularly at PhD level
- (iii) That it had been accepted that establishing Masters programmes would be important for Zambianization in the School and hoped that this would also be valuable to the Government Department of Veterinary and Tsetse Control Services for further training of its staff
- (iv) That the idea of establishing "sandwich programmes" had been discussed and agreed that support for this could be obtained from utilizing Counterpart Training Funds

- 1.2 The Chairman ASSURED the meeting of the commitment and support for the Veterinary Education Project from the University and from the Ministry of Education. He POINTED OUT that the School would continue to receive support from the Staff Development Committee in spite of the limited resources for Staff Development training for the entire institution. In this regard he REPORTED that the School had been allocated in 1992, 1 of the 5 Staff Development awards available for the whole university. He CONCURRED with the desire and urgency to develop postgraduate programmes

in that he also FELT that there was need to strengthen these programmes in the building up of institutional capacity.

- 1.3 It was NOTED with satisfaction from the documents and the Acting Dean's report that Staff in the School were actively involved in research and had produced a number of publications.

In relation to publications the Chairman, made special reference to the production of the recent brochure printed in Japan. He EXPRESSED sincere appreciation for JICA assistance on the excellent quality of the final product and ADDED that he felt this was a reflection of the excellent facilities available in the School and the quality of veterinary education produced by the School through the Project.

- 1.4 On matters relating to support for students in post-graduate programmes CONFIRMED that if the students were Staff Development Fellows their support was assured from UNZA. Further, it was EXPLAINED to members by the Deputy Permanent Secretary of the Ministry of Education that it was Government policy to identify critical and crucial areas for which manpower should be developed and that scholarships were assured for training in sciences, technology, agriculture, medicine, veterinary medicine and education in general. He NOTED however that information on manpower needs was not available.

- 1.5 NOTED that the progress of the project had generally been most satisfactory during the past year.

2. OTHER DONORS SUPPORT

- 2.1 NOTED that the School had described in detail the support received and/or requested for the Project, from other donors such as UK, Belgium, Norway, Sweden and Ireland.

2.2 On donor coordination REPORTED by the Chairman that all donor support to the University was coordinated through the Vice-Chancellor's Office. ALSO REPORTED that the University realised the importance of coordination of donor support and as the Strategic Plan for the University evolved it was intended to have a meeting with all the donors plus the relevant Embassies, Ministries and Departments to discuss more effective utilization of their support.

3. JICA TECHNICAL COOPERATION

3.1 REPORTED to the Joint Committee that the School meeting had gone through the formal Record of Discussion (RD) and TSI documents. ALSO REPORTED that only minor changes had been agreed at the School meetings for the Annex of the RD and the TSI. These changes had been affected and details were recorded in the minutes of the School meetings (attached).

3.2 CONFIRMED that the formal RD and TSI documents were therefore ready for signature as planned and were accepted as an accurate record of the deliberations with the JICA Mission.

3.3 EXPLAINED that it had been agreed during the School meetings that notes be attached to the Annex and TSI documents to clarify such matters that the dispatch of JICA Experts will include other areas of specialization and not be limited to Paraclinical Studies and Disease Control; and that the provision of Staff from the Zambian side particularly in the more senior categories such as "professor" would not necessarily be Zambian staff as these were unavailable at the moment.

3.4 CLARIFIED by the Chairman that the reference to the "Veterinary Experimental Farm" in the documents required to be changed for legal reasons to "The University Farm (Liempe)".

3.5 ACCEPTED the TSI document with the changes as agreed in this and the School meeting.

4. OTHER ISSUES RELATING TO THE PROJECT

4.1 Filling of long-term positions

NOTED that there had been occasional problems to fill all long-term positions. INFORMED that Japanese Universities do not grant sabbatical leave which contributed to difficulty in filling some long-term positions. In spite of this NOTED that the Project was working well. On behalf of the University, the Chairman REITERATED UNZA's appreciation of the involvement, commitment and efforts of the Steering Committee to recruit Staff and support the Project.

He CONFIRMED that UNZA was aware of and appreciative of the sacrifice that had been made by some of the JICA Experts who had been assigned to the Project.

4.2 Staff Retention

NOTED that the School so far had not experienced any problems regarding retention of Zambian Staff. REALISED with gratitude, that this was an indication of the professional commitment and dedication of Staff to the Project.

4.3 Student Enrolment and Employment of Graduates

4.3.1 NOTED that the present enrolment has been been between 15-20 students annually. ALSO NOTED that it might not be possible to increase the enrolment figures as the School accepted those

candidates who have passed all first year Natural Sciences courses and also showed interest in wishing to study Veterinary Medicine by indicating this programme as their 1st or 2nd choice.

4.3.2 On the employment of graduates INFORMED that the Department of Veterinary and Tsetse Control Services still had about 100 vacancies and therefore could absorb all the School's graduates for the next 5 or 6 years.

4.3.3 NOTED that although it was UNZA's policy to recruit students who had completed courses in Institutions such as NRDC, previous experience had shown that such students cannot cope with the Veterinary Medicine subjects if they were weak in the basic sciences. CONFIRMED that the University would continue to explore ways of admitting other students to UNZA programmes.

5. ANY OTHER BUSINESS

There was no other business but in the closing remarks Professor Kanagawa thanked members for their contributions to the discussions and OBSERVED that as there were no major changes to the formal agreement documents these would be signed as agreed. The Chairman ADDED his appreciation for the valuable contributions made by members of the Joint Committee and at the School meetings during the deliberations with the visiting JICA Mission and closed the meeting at 11.30 hours.

Signed Date: July 9, 1992
Professor A A Siwela
ACTING VICE-CHANCELLOR - UNZA

Signed Date: July 9, 1992
Professor H Kanagawa
**LEADER, JICA IMPLEMENTATION SURVEY
MISSION**

THE UNIVERSITY OF ZAMBIA

IN ATTENDANCE OF THE JOINT JICA/UNZA MEETING HELD ON 3RD JULY, 1992

Professor A A Siwela	- Acting Vice-Chancellor (Chairman)
Professor H Kanagawa	- Leader, JICA Implementation Survey Mission
Professor M Hagio	- JICA, Implementation Survey Mission
Mr T Ando	- JICA, Implementation Survey Mission
Professor C E A Lovelace	- Acting Dean, School of Veterinary Medicine
Professor Y Tsutsumi	- JICA Team Leader
Mr K A Chali	- Deputy Permanent Secretary, Ministry of Education
Dr H G B Chizyuka	- Director, Department of Veterinary and Tsetse Control Services
Mr K Kamiya	- JICA Zambia Office, Resident Representative
Mr T Maeda	- Embassy of Japan
Mr S Nabeya	- JICA Zambia Office
Mr W C Ngomalala	- Ministry of Planning and Development Cooperation (Economic and Technical Cooperation Department)
Professor K Kaji	- Head, Disease Control Department
Mr O Kosegawa	- JICA Coordinator
Dr M M Musonda	- Acting Assistant Dean (Postgraduate) School of Veterinary Medicine
Dr E T Mwase	- Acting Assistant Dean (Undergraduate) School of Veterinary Medicine
Ms J M F Calder	- Special Administrative Assistant to the Vice-Chancellor (Rapporteur)

EXPLANATORY NOTES:

During the discussions held at the University of Zambia between 1st and 8th July 1992 with the JICA Implementation Survey Mission on the Tentative Schedule of Implementation (TSI) of Phase II of the UNZA Veterinary Education Project it WAS AGREED that the following explanatory notes be attached to the TSI (Phase - II) document:

1. That a continuous line (_____) meant that the specified input or activity would be implemented or in place during the period indicated.
2. That a dotted line (-----) meant that the specified input or activity would be commenced or continued or reduced during the period indicated.
3. Under I "UNZA Activities" 2 (4) - it was understood by all concerned that although the PhD course/syllabus was still being developed, PhD candidates may be identified and commence programmes earlier than the TSI scheduled depending upon the availability of a suitable supervisor and facilities.
4. Under II "Project Activities" 2 (1) be changed to "Research on diseases of domestic animals and wildlife in Zambia"; 2 (2) to read- "Research on Public Health aspects."
5. Under III "Japanese Contribution" 1 (3) be changed to- "Academic and Research Staff", 1 (4) "Technician", be added.
6. Under IV "Zambian Responsibility" - 1 Counterpart staff - it was understood by all concerned that it was Zambia's responsibility to provide the specified staff in the mentioned categories however these might be non-Zambian staff. It was further understood that the Zambianization programme would continue for the recruitment, appointment, training of Zambian staff at all levels and that they would occupy the more senior positions in due course.

THE UNIVERSITY OF ZAMBIA
SCHOOL OF VETERINARY MEDICINE

AGENDA FOR SCHOOL MEETINGS (ALSO FOR JOINT COMMITTEE MEETINGS)

1. Review of Progress in the development of the School of Veterinary Medicine between September, 1991 and July 1992.
 - 1.1 1991 Annual Report
 - 1.2 Proposed Staffing and present staff list
 - 1.3 Student enrolment and output figures
 - 1.4 Graduates (1991) and their destination
 - 1.5 Budget
 - 1.6 Revolving Fund
 - 1.7 Staff training
 - 1.8 Research, publications and Seminars
 - 1.9 UNZA VETERINARIAN
 - 1.10 Veterinary Liaison Meeting
2. Other donors
 - 2.1 U.K
 - 2.2 Belgium
 - 2.3 Norway
 - 2.4 Sweden
 - 2.5 Ireland
3. JICA Technical Cooperation Phase - II
 - 3.1 The Attached Document
 - 3.2 Master Plan and Annex to RO.
 - 3.3 Tentative Schedule for the Implementation
4. Exchange of any other ^{ideas on} major issues that relate to JICA Technical Cooperation
5. Any Other Business

THE UNIVERSITY OF ZAMBIA

MINUTES OF DISCUSSIONS OF SCHOOL MEETINGS HELD WITH THE JICA IMPLEMENTATION
SURVEY MISSION FOR THE UNIVERSITY OF ZAMBIA: VETERINARY EDUCATION PROJECT
(PHASE II)

- DATES AND TIMES OF MEETINGS: - Wednesday, July 1, 1992 at 14.30
hours, and Thursday, July 2, 1992
at 08.30 hours.
- VENUE: - Board Room, UNZA School of Veterinary
Medicine
- PRESENT AT MEETINGS:
- Professor H Kanagawa - Head, JICA Implementation Survey
Mission
- Professor M Hagio - JICA Implementation Survey Mission
- Mr T Ando - JICA Implementation Survey Mission
- Professor S E A Lovelace - Acting Dean, School of Veterinary
Medicine (Chairman)
- Professor Y Tsutsumi - JICA Team Leader (Paraclinical Studies)
- Dr E T Mwase - Paraclinical Studies
- Dr M M Musonda - Paraclinical Studies
- Professor T Kaji - Head, Disease Control
- Dr G S Pandey - Disease Control
- Dr L M Tuchili - Disease Control
- Dr H Chitambo - Disease Control
- Professor J Onamegbe - Head, Clinical Studies

Dr D N Kisauzi	- Head, Biomedical Sciences
Mr W Benkele	- Central Services
Mr O Kosegawa	- JICA Coordinator
Mr S Nabeya	- JICA Zambia Office
Mr A Chishimba	- Dean's Office
Ms J M F Calder	- Vice-Chancellor's Office

(Rapporteur)

The Chairman, Professor Lovelace, welcomed the JICA Implementation Survey Mission, led by Professor Kanagawa, to the School for the discussions to be held with the Staff regarding the Veterinary Education Project. She EXPRESSED the hope that as a result of these discussions an agreement for JICA cooperation and support for Phase II of the Project would be signed.

In response Professor Kanagawa thanked members for their attendance at the meeting and provided the following information regarding the purpose of their visit:-

He EXPLAINED that Phase I of the Project was about to expire there was need to extend JICA support for the Project for a further five year period. Although willingness had been expressed by both Parties regarding an extension, a Grant Aid Consulting Mission who had visited Zambia recently had recommended that priority for Japanese assistance be given to food support and water supply because of the drought situation and therefore the Veterinary Research Centre would not be established in Phase II. He HOPED that even though this would be disappointing news that an agreement for Phase II would be signed and that the establishment of a Veterinary Research Centre would be again considered some time in the future. Finally he REQUESTED the cooperation of all concerned during the discussions with this Survey Mission.

Introductions were made by the JICA Mission and other members present.

The Agenda and supporting documents for discussion had been circulated.

1. REVIEW OF PROGRESS IN THE DEVELOPMENT OF THE SCHOOL BETWEEN
SEPTEMBER 1991 AND JULY 1992

1.1 1991 Annual Report:

(See paper headed: 1991 Annual Report)

1.1.1 NOTED from the report and also the Acting Dean's remarks that the School continued to develop as planned and that the overall progress was most satisfactory.

1.1.2 NOTED that the School itself was well maintained by both staff and students.

1.1.3 REPORTED that although the recruitment of staff was slow the numbers were increasing steadily.
ALSO REPORTED that there was satisfaction with the high calibre of staff who had been recruited for the School.

1.1.4 NOTED that still some problems were being experienced in obtaining staff in the field of Reproduction.

1.2 Staffing:

(See table headed: Proposed staffing and lists of staff in each Department).

1.2.1 INFORMED that the "Proposed staffing" table had been prepared with the establishment of the Veterinary Research Centre in mind.

1.2.2 NOTED that the School continued to have a shortage of Professional staff. The majority of the Professors in the School were the JICA Experts.

1.2.3 FURTHER NOTED that there was also a shortage of Zambian Veterinary Technicians. INFORMED that the School intended to establish a training programme for technical staff in an effort to alleviate this problem.

1.2.4 CLARIFIED that there was a requirement that Professors teach undergraduates within their own speciality even though their emphasis would be research.

1.3 Student Enrolment and Output

(see relevant table)

1.3.1 NOTED that the School currently had about 100 undergraduate students with an intake of 19 in both 1990 and 1992.

1.3.2 EXPLAINED that although the School had facilities to enrol 30 students annually, it depended upon the intake from the School of Natural Sciences and had little control over this matter.

1.3.3 NOTED that the numbers of graduates produced by the School was steadily increasing each year and 59 would have graduated by the end of 1992.

1.4 Graduate employment

(see relevant table)

- 1.4.1 NOTED that all the recent graduates had obtained employment with either Government or in private practice with the University retaining two as SDF's and one as a House Surgeon.
- 1.4.2 ALSO NOTED that to date the graduates produced by the School had experienced no difficulties in finding employment.
- 1.4.3 REPORTED that the Government still had many vacancies and therefore the School's graduates could be absorbed for sometime. FURTHER REPORTED that vacancies would also arise from the Government's policy of phasing out employment of Expatriate Veterinarians and POINTED OUT the need for Veterinarians in the meat industry.
- 1.4.4 It was also REPORTED that with the policy on privatization being established the Government was working closely with donor countries and agencies to explore possibilities of projects and programmes which would improve employment opportunities of the Veterinary graduates.
- 1.4.5 NOTED the contribution to the Zambianization process for the country which was being encouraged and supported through the training of Zambian graduates in the School.

- 1.4.6 INFORMED that although the graduates were well paid in private industry/practice the continuation of the disparity in remuneration between Government and UNZA and that of the private sector might result in problems of retention in future.
- 1.4.7 NOTED that UNZA encouraged consultancy work by qualified staff as being one way of trying to retain them in service.
- 1.4.8 INFORMED with deep regret of the untimely demise of Dr M Bwalya one of the House Surgeons who had died whilst on duty.
- 1.4.9 NOTED that so far all those who had received training in Japan were still in UNZA service indicating the high level of personal commitment of the staff in the School.

1.5 Budget

(see appropriate document).

- 1.5.1 NOTED the table giving a summary of the School's budget for 1992 and that the total allocation was K49 million.
- 1.5.2 INFORMED that the University had not reduced the School's proposed budget for major items of expenditure which included budgetary provision for maintenance of equipment and purchase of chemicals.

1.5.3 NOTED that the School therefore was not dependent on JICA for running costs.

1.5.4 INFORMED that the School also had not been restricted by the University in terms of recruitment of staff, particularly technical staff.

1.5.5 AGREED to provide the JICA Mission with information showing the total budget for each academic school of the University and staffing information by departments for comparative purposes.

1.6 Revolving Fund

(see attached table entitled: Revenue)

1.6.1 EXPLAINED that the table reflected the monthly revenue generated for the School by the Small and Large Animal clinics, the Disease Control Diagnostic Laboratory and Central Services.

1.6.2 NOTED that during the first half of 1992 a total of about K250,000 had been realised from the School's own resources and services and ALSO NOTED that this demonstrated a steady increase in building up the Revolving Fund.

1.7 Staff Training

(see attached papers listing training of Zambian staff).

1.7.1 NOTED that 10 Zambian Academic Staff had now been trained four with Ph D and six with Masters degree.

NOTED that three of these had received postgraduate training in the School.

1.7.2 ALSO NOTED that currently two Zambian Academics were pursuing Masters degree studies and six, Ph D studies - four of these were studying in Japan.

1.7.3 REPORTED that Dr Ngoma who is on training in Japan who had undergone some surgery was recovering well and had been discharged from hospital on 30th June.

1.7.4 NOTED that the School had managed to recruit five staff members who already had Masters degree and that these would eventually have to commence Ph D studies.

1.7.5 FURTHER NOTED that the School was given up to four Staff Development Fellow positions by the University each year.

1.8 Research, Publications and Seminars

(see relevant documents with details of Staff involvement in these activities).

1.8.1 NOTED that the Staff of the School had been very active in a variety of research projects, had produced 20 publications in 2 years and had also been actively involved in seminars.

- 1.8.2 INFORMED that all new research requests from the School this year had been approved and about K2 million had been allocated by the UNZA Research Grants Committee.
- 1.8.3 NOTED with satisfaction the School's research activities.
- 1.8.4 The JICA Mission requested a list and details of research projects funded through non-UNZA sources.
- 1.8.5 NOTED the details of the nine research activities by School Staff funded through a Grant to the University from the Norwegian Government.
- 1.8.6 OBSERVED that the attendance of seminars outside UNZA and particularly outside Zambia was often restricted due to lack of funding.
- 1.8.7 NOTED the content of the paper outlining the School's efforts and intention for collaborative research with other institutions within the region.

1.9 The UNZA Veterinarian

- 1.9.1 INFORMED that the 5th issue of the UNZA Veterinarian had now been produced and circulated free-of-charge to all veterinarians in the country.

1.9.2 ADVISED that although the current UNZA Veterinarian was produced within the School, it was hoped this would eventually develop into a Veterinary Journal for Zambia.

1.10 Veterinary Liaison

(see minutes of 1st meeting held on 12th June, 1992)

1.10.1 NOTED the document minuting the first meeting on Veterinary Liaison between the School, the Department of Veterinary and Tsetse Control Services and the Veterinary Association of Zambia.

1.10.2 NOTED that it was intended through improved liaison to, among other things, coordinate research; encourage diagnostic collaboration and cooperation through workshops, seminars and continuing professional development programmes (CPDPs); collaborate regarding postgraduate training; and in the establishment of field stations to assist the rural farmers.

2. OTHER DONORS

(see the documents detailing the aid and support for the School from other donors).

2.1 United Kingdom

2.1.1 NOTED that ODA-funded Project for the School included the provision of four staff, two training awards per year, provision of funds to purchase specialised equipment, materials drugs and chemicals and also the provision of books and reference materials.

2.1.2 INFORMED that the ODA-funded Project was due to end in May 1994 at a total cost of around £407,190.00

2.1.3 ALSO INFORMED that the Project would complement the British Council funded link programme between the School and the Veterinary Faculty of Glosow University

2.2 Belgium

2.2.1 NOTED that the Belgian assistance had supported the establishment of the Ambulatory Clinic which had become an important means of practical training for students as well as providing valuable service mainly to commercial farms around Lusaka.

2.2.2 INFORMED that the School had requested Belgian support for a new project which would be to establish in a traditional farming area for the improvement of clinical training and research activities. INFORMED that it was hoped that this could be done in conjunction with the Department of Veterinary and Tsetse Control Services and it was intended that the Field Station would include laboratory and accommodation facilities.

2.3 Norway

2.3.1 INFORMED that the School had requested from Norway support for the first year of a two year project to be established for the in-service training of veterinary technicians.

2.3.2 AGREED that the "Agreement" document attached to the proposal be withdrawn as this was not yet finalized.

2.3.3 NOTED the proposed document from the School to the Norwegian Ministry of Foreign Affairs to establish a Veterinary Biomedical Sciences Research Support Unit.

2.3.4 INFORMED that the School had also been actively involved in trying to establish cooperative links with the Norwegian College of Veterinary Medicine through the Norwegian Universities Committee for Development Research and Education (NUFU). NOTED the programme proposal document which had been submitted to NUFU for consideration.

2.4 Sweden

2.4.1 INFORMED that for two years now Sweden (SIDA) had paid for subscriptions for 44 Journals for the Veterinary Library.

2.4.2 ALSO INFORMED that assistance for Journal subscriptions through SIDA General Support to UNZA would be available in 1992 and again in 1993.

2.5 Ireland

2.5.1 INFORMED that although the Irish Government support through HEDCO had ended in 1990 the Irish staff who had worked at the School had organised to raise funds to support some senior students to go to Ireland for a few weeks attachment. REPORTED that in 1991 three students had benefitted from this arrangement and in 1992 it was hoped that five students would be able to go to Ireland for these attachments.

2.6 Japan

2.6.1 REPORTED that the School had also begun to establish formal links with Japanese Universities. INFORMED that initial contacts had already been made with Hokkaido University and Miyazaki University. NOTED that these links-agreements had also resulted due to previous contacts of Japanese Veterinarians with the School.

2.6.2 REPORTED by the JICA Mission that the Hokkaido/Zambia Society had been established to take care of the increasing number of Zambian students going to Hokkaido. INFORMED that presently Professor Fujimoto was heading the Society.

3. JICA TECHNICAL COOPERATION - PHASE II

3.1 (see attached document)

3.1.1 NOTED the content of "the Attached Document" which referred to details of University of Zambia Veterinary Education Project Phase II.

3.2 Annex

3.2.1 NOTED that the Master Plan, in the Annex document presented to the meeting for Phase II of the Project emphasised postgraduate training.

3.2.2 REPORTED that the postgraduate training referred to in I 3 (1) of the Annex would have emphasis on Masters programmes.

3.2.3 DISCUSSED the possibility of utilizing the Counter-part Training and links Programmes for training at postgraduate-level through a "sandwich-programme". INFORMED that as Japan already had "sandwich programmes" with South East Asian countries it might be possible to enter into such an arrangement with UNZA.

3.2.4 POINTED OUT that for postgraduate training to be successful locally the following components were necessary:

- i. an approved postgraduate programme (or programmes)
- ii. sufficient numbers of senior Academic Staff not burdened with undergraduate teaching and here permanently or for long-term assignments - for the the supervision of postgraduate students.
- iii. sufficient numbers of students to make the running of postgraduate programmes economically viable.
- iv. adequate scholarships/support for students including funding for their research
- v. up-to-date scientific/journals and periodicals
- vi. text books and/or other reading materials
- vii. sophisticated laboratory equipment, materials and chemicals for postgraduate work.
- viii. adequate and appropriate accommodation facilities for postgraduate students who were often mature and/or married

- 3.2.5 AGREED that there may be need to look into the possibility of providing accommodation for post graduate students.
- 3.2.6 AGREED that in order to strengthen the research facilities at the School the future equipment requirements from JICA would be directed to needs for postgraduate education and research.
- 3.2.7 INFORMED that extension services was a weakness not only of the School but also of Government. AGREED that in order to strengthen the extension services the following activities would need to be expanded: assistance to the farmers; clinic contacts; publications of booklets; support for the Zambia Veterinary Association.
- 3.2.8 NOTED that in the listing of Japanese Experts in II 3 of the Annex the concentration was to be in the fields of Paraclinical Studies and Disease Control. REQUESTED that the assignment of Japanese Experts should not exclude the possibility of obtaining Experts for other Departments of the School when pressing needs arose. Gave an example of the urgent requirement presently for a long-term Expert in Pathology although there was a Zambian trained for this. EXPLAINED that the teaching and and diagnostic laboratory responsibility was too great for one person and that the need for a JICA Expert in this field was still required. AGREED that the insertion of the word "mainly" before "... in the fields of" would cover any request for Experts in other areas.

- 3.2.9 CLARIFIED Note V of II of the Annex that the JOCV Volunteers be assigned as Lecturer III "to give lectures and/or practicals ..."
- 3.2.10 NOTED that 8 Long-term Experts would be assigned to the Project and when required, up to 6 short-term Experts annually.
- 3.2.11 INFORMED that the Experimental Farm under VI 2 (2) of the Annex referred to the University Farm. However in a subsequent meeting with the Acting Vice-Chancellor this was altered to read "The University Farm (Liempe)"
- 3.2.12 ACCEPTED the content of the remainder of the Annex document.
- 3.3 Tentative Schedule of Implementation (TSI document)
- 3.3.1 NOTED the TSI document detailed all activities for the Project with time-schedules for each of these.
- 3.3.2 INFORMED by the JICA Mission that another Mission would come to discuss a detailed implementation schedule and that the School would be required to produce "a logical framework" for the development of an implementation schedule.
- 3.3.3 ALSO INFORMED that guidelines and assistance from the JICA Lusaka Office would be given for the production of "the logical framework" document.

3.3.4 DISCUSSED a number of details of the TSI and AGREED to make a number of changes. The changes made to the document were as follows:

I. UNZA ACTIVITIES - 2 (4) - AGREED to put a dotted-line on the 4th and 5th year of "Programme Development".

II. PROJECT ACTIVITIES - 1. (3) - AGREED to put a dotted-line on the 4th and 5th year of Ph.D programme development.

-2 AGREED to change the wording on research activities, to expand the scope and include public health aspects.

III. JAPANESE CONTRIBUTION - AGREED to change 1 (3) to "Academic and Research Staff " and to add (4) " Technician"

4. AGREED to include "... and materials".

IV. ZAMBIAN RESPONSIBILITY - AGREED to show the staff categories more clearly i.e. (1) Head of the Project (The Dean) (2) Academic Staff (3) Technical Staff (4) Other Staff. AGREED that (3) 1 House Surgeon should appear under "other staff". AGREED that (5) 2 and (7) should read "Office of the Dean" and "Office of the Dean of Students Affairs" respectively. AGREED that a dotted-line should be shown on year 1

and 2 of (5) 4) Planning Office and also year 1 and 2 of 2 2) Experimental Farm.

3.3.5 AGREED that notes should be attached to the TSI to explain the understanding of matters such as Staff Counterparts under Zambian Responsibility as it was understood Zambian "Professors" for example were not available for the Project.

4. EXCHANGE OF OTHER IDEAS ON ISSUES RELATING TO THE PROJECT

4.1 Possibilities of funding for "sandwich-programme".

4.1.1 CLARIFIED that it was not possible to utilize JICA funding to send someone for training in a country other than Japan. However, funding such training was available under another system provided this training was less than one year in duration e.g. training at ILRAD.

4.1.2 ALSO CLARIFIED that the Counterpart training could be utilized for training on a "sandwich programme".

4.2 Difficulties in filling some long-term positions.

4.2.1 NOTED that there had been some difficulties faced in Japan to fill some long-term positions such as Pathology and in the diagnostic areas.

4.2.2 EXPLAINED that one of the problems experienced in filling long-term positions was related to the Japanese Universities not wishing to release Staff as the Government would not increase the number of posts in these Institutions.

4.2.3 ASSURED that continued efforts would be made by the Japanese authorities to recruit and assign the Staff required for the Project.

4.2.3 NOTED with sincere appreciation the excellent brochure on the School which had been printed in Japan. FELT that this brochure would assist to publicise the activities and facilities available in the School. INFORMED that the brochure had also been printed in Japanese.

4.3 The Veterinary Diagnostic Laboratory

4.3.1 NOTED that with the postponement of the possibility of establishing the Veterinary Research Centre the problem of the incorrect siting of the Veterinary Diagnostic Laboratory would continue. REPORTED that during previous JICA Missions it had been observed that the Veterinary Diagnostic Laboratory shared the same space and facilities with teaching and research activities and this was felt to be an unsatisfactory situation. NOTED that there was not anything that could be done about this matter at this stage.

There being no other business the Chairman thanked members for their contributions to the discussions and closed the meeting at 12.30 hours.

Confirmed Date: July 9, 1992
(HEAD OF JICA MISSION)

Confirmed Date: July 9, 1992
(ACTING DEAN, SCHOOL OF
VETERINARY MEDICINE)